

第 15 回けやきの杜こども作文コンクール 入賞者・入賞作品のご紹介

国分寺市内の小学校 5・6 年生のみなさまを対象に「障がい者も高齢者も暮らしやすい、私の好きな国分寺」～国分寺の良いところ、もっと良くしたいところ～というテーマでの作文を募集したところ。452 名からのご応募がありました。いずれも素晴らしい作文ばかりでしたが、厳正なる審査をさせていただき、9名の入賞作品を選ばせていただきました。今年もたくさんのご応募ありがとうございました。

以下入賞者のみなさまの作品をご紹介します。

金賞 国分寺市立第七小学校 吉田 実咲さん

銀賞 国分寺市立第四小学校 三宮 遥太さん

国分寺市立第七小学校 一ノ瀬 由彩さん

国分寺市立第十小学校 ヴェーネバーグ 絵真さん

銅賞 国分寺市立第一小学校 宇田川 舞優さん

国分寺市立第四小学校 木村 文香さん

国分寺市立第四小学校 田中 柚希さん

国分寺市立第七小学校 重野 優さん

国分寺市立第七小学校 杉田 楓さん

第15回 けやきの杜 小学生作文コンクール 金賞作品

町も変わろう、人も変わろう

国分寺市立第七小学校
吉田実咲

国分寺駅は再開発によって、障がい者も高齢者も使用しやすい駅になりました。具体的には、再開発前にはなかったスロープやエレベーターなどができました。また、急な階段から上りやすい、緩やかな階段に変わりました。

私が小学三年生だったころ、駅に出かける時に車いすの方がスロープを利用しているのを見かけました、その方の車いすは電動ではなかったので大変そうに上っていました。私は手伝いたいと思いましたが、何と声をかければ良いのかも分からず、何もできませんでした。その時、近くにいた女性が「お手伝いできることはありますか。」とたずねて車いすを押してあげていました。その光景を見て私は、環境を整えるだけでは障がい者、高齢者の方が利用しやすくなるわけではなく、人の手助けも大事なんだなと感じました。

また別の日、お母さんと駅に行って、エレベーターに乗った時にベビーカーを押した方が乗ろうとしたのです。しかし、満員で乗れませんでした。その時、私のお母さんがエレベーターを降りてゆずってあげていました。でも、私とお母さんが降りただけではまだ乗れませんでした。そこで、お母さんが「だれか降りてくれませんか。」と言うと一人の方が降りてくれました。この時、私はお母さんのように声をかけられる人になりたいと思いました。

このように、環境を整えるだけでは利用しやすくなるわけではなく、人の手助けが必要であるということ学びました。町が変わるだけでなく、人も変わらなければならないと私は考えます。

第15回けやきの杜こども作文コンクール 銀賞作品

ケガから学んだ、国分寺のユニバーサルデザイン

国分寺市立第四小学校
三宮 遥太

「いつもどうやって上がっていたっけ…」

六年生の夏休み、足を骨折して初めて松葉づえで外出した日、私は、毎日何も考えずにかげ上がっていた歩道橋を前に、立ちすくんでいました。

つえを一段目についた次の瞬間、転びそうになり、結局片足ケンケンで上ることにしましたが、一歩間違えたら大きなケガにつながっていたと思い、ゾッとしました。このことは「お年寄りの方や障害のある人たちも、同じ思いをしているかも」と気付かせてくれ、改めてバリアフリーについて考えるきっかけとなりました。

この体験のもととなった歩道橋をはじめ、市内にはスロープやエレベーターの設置されていない階段で思い当たる所が、いくつかあります。自分のケガをきっかけに市の街づくりに興味が出て調べてみると、令和四年三月に『国分寺市バリアフリー基本構想』を策定し、積極的にバリアフリー化を進めていることを知りました。取り組みを知ることで、自分の街がもっと好きになりました。

以前と比べ、『広くなった歩道』、『自転車専用レーン』や『押しボタン式の信号がより反応の良いタッチセンサー式に変わる』など、私たちの暮らす国分寺市はとても安全性の高い街へと今も成長し続けています。

私は、『高齢者も障害者も暮らしやすい街』とは、常により良くなろうとする姿勢を持つ街だと思います。これからも色々な立場の意見を積極的に取り入れたバリアフリー化が、一歩ずつ進めばうれしいです。

第15回 けやきの杜こども作文コンクール 銀賞作品

私は国分寺市が大好きです

国分寺市立第七小学校
一ノ瀬 由彩

私は国分寺市が大好きです。

やさしい人がたくさんいると思った時のことです。

私が3年生のときにバスに乗りました。私が乗った時にはもう人がたくさん乗っていました。しかも私は、バスよいがひどくて上を向いていると、20代くらいの女性が

「ここにすわりますか？」と聞いてくれました。でも私は「大丈夫です。」と言ったら「次おるからどうぞ、すわってください。」と言ってくれました。私はことわれず「ありがとうございます。」と言ってすわりました。

その女性は、「どういたしまして。」と喋ってすぐにおりてしまいました。やさしい人だと思いました。

私たちの学校には、けやきというクラスがあります。けやきのクラスは障がいのある人たちが通うクラスです。とってもやさしい人たちです。私が1人で「ぼー」としていると「おーい大丈夫か。」と心配してくれました。ほかにも、「よ！」と言ってくれたりしました。とってもやさしかったです。

町中でも学校の中でもやさしい人がたくさんいると思いました。次は自分がだれかにやさしくしたいです。

第15回けやきの杜こども作文コンクール 銀賞作品

私が考えるすてきな街

国分寺市立第十小学校
ヴェーネバーグ 絵真

毎朝の通学の時、見守りをしてくれる方々がいる。それは、ご近所の高齢者。いつも私達の通学路に立って、やさしくあいさつしてくれたり、明るく話しかけてくれたりする。そのおかげで、私は元気が出るし、安心して登校できる。このように、私は高齢者の方からサポートを得ている。また、別の地域ではあるが、障がい者の方にパワーをもらう機会があった。オーケストラの演奏でピアノをつとめたのが、生まれてすぐに視力を失った障がい者の方だった。心の奥までひびく演奏で強く感動した。私が考えるすてきな街は、高齢者も障がい者もイキイキと活やくできるところだと思う

高齢者であっても、そうでなくても、障がい者であっても、そうでなくても、お互いがサポートし合ったり、元気づけたり、感動を与え合ったりできる場所。それが魅力的な街ではないだろうか。

自分の周りを見渡してみた。学校の周りに様々な施設がある。福祉センターや、その他障がい者のための施設である。考えてみればそれらの施設がどのようなことを行っているのか知らない。まずは知ること調べることから始めて、施設で行われるイベントに参加してみようと思う。そうすることで高齢者や障がい者の方と関わることができ、お互いを支えることにつながる。みんながくらしやすい国分寺になるために第一歩をふみ出そう。

第15回けやきの杜こども作文コンクール 銅賞作品

不自由なく行動できる町

国分寺市立第一小学校
宇田川 舞優

私は障がい者も高齢者も暮らしやすくするために街に不自由なく行動できるようにするべきです。

そのためには二つの改ぜん点があると思います。一つ目は階段を少なくすることです。車いすの人にとって階段はのぼれない、足が悪い高齢者ものぼりづらく、大変だと思います。エスカレーターも階段と同じでつかいづらいです。二つ目は電車やバスにかんたんに乗れないことです。電車やバスに車いすが乗ることはできますが乗っている人は少ないです。また、以前高齢者がバスに乗ろうとしていましたが、バスに乗るのがむずかしく乗るのに時間がかかっていました。これらのように、大変なこともあります。国分寺市では障がい者、高齢者を町でよく見かけます。ほかにも階段もたくさんありますがスロープもあります。バスの車内、ゆずり合っています。良いところはほかにもあります。駅のきっぷうり場は点字で料金と一っしょにかいてあります。高齢者の方がきがるに行ける場所やイベントも市がやっています。私のまわりにも高齢者があつまれる場所があり、みんな笑顔で帰っています。このような場所やイベント、とりくみがふえていくことで障がい者、高齢者がなにに不自由なく国分寺にすめたい、と思ってもらえます。

国分寺市は障がい者、高齢者が住みやすい町になっていくためにはだれもが不自由なく住めるようにしていくことです。これからもすみやすくすることをとめないでいくことが大事です。

第15回けやきの杜こども作文コンクール 銅賞作品

「ありのままで」暮らす

国分寺市立第四小学校
木村 文香

「突発性難聴ですね。」塾でテストを受けていたら、急に右耳の聞こえが悪くなり、病院に行きました。検査のあとに、医師が私にそう告げたのです。小学校生活最後の夏休みのことでした。

私は途方に暮れました。驚き、その一言でした。医師に、完全に治るのは1/3の人しかいないと言われて、私は、「もし私の耳が聞こえなくなったら」ということについて考えるようになったのです。

私が一番重要に感じたのは、コミュニケーションの問題です。「耳が聞こえない人、または耳が聞こえにくい人が会話する手段」というと、私はまず手話を思い浮かべます。しかし、調べてみると、耳が聞こえない人の中で手話ができる人の割合はたった2割でしかありません。私のように途中から耳が聞こえにくくなったり、聞こえなくなったりする人もやはり多く、そういった人たちは手話ができないのです。このことは、聴覚に障害がある人が会話する方法は手話だけに限らず、もっと他の可能性があるということです。

目が見えない・見えにくい人のための点字にしろ耳が聞こえない・聞こえにくい人のための手話にしろ、身体のだこかが不自由な人が何らかの新しい言語を覚えなくてはならないのは、とても負担がかかることです。私が好きな国分寺は、誰もがありのままで暮らせる国分寺です。公園には多機能トイレがあり駅には音声案内とエレベーターのある国分寺が、私は大好きです。国分寺をもっといろいろな人にとって暮らしやすくするために、さまざまな立場に立って町づくりをしてほしいというのが、突発性難聴の私の願いです。

第15回けやきの杜こども作文コンクール 銅賞作品

国分寺にもっと光を！

国分寺市立第四小学校
田中 柚希

私が国分寺の良いところだと感じる点は二つあります。

一つ目は、高齢者などがゆったりと過ごせる場が多いということです。例えばお鷹の道です。お鷹の道ではたくさんの自然に囲まれた道を歩き、少しつかれたところにカフェがあります。また帰り道には「こくベジ」の直売所があり、便利さにも優れています。他にも、武蔵国分寺公園や武蔵国分寺跡では、春にはお花見、夏には日陰で休けい、冬は雪が降った時の雪遊び…と、一年中誰かが過ごしているのを見ます。

二つ目は、障がい者が受け入れられる施設があるということです。実際に、私が通っている小学校にも、「ふたば・さつき学級」があります。「ふたば・さつき学級」とはクラブ活動や委員会活動と一緒に活動して、交流を深めています。しかし、国分寺には、もっと良くしたいところもあります。例えば道の整備です。私が習い事から帰る際に通る道は、急な坂道が続いている上に、道路がすぐ横にあるのに歩道がとてもせまいので、すれ違う度に、相手とゆずり合って通っています。自然とゆずり合いが生まれる点ではとても良いと思いますが、足の弱い高齢者や、車いすなどの障がい者にとっては、とても通りにくい道になっていると思います。このように、私が暮らす国分寺は、全ての人が暮らしやすい工夫がたくさんあるということが改めて分かりました。しかし、そんな国分寺にも改善点があります。そういうところを改善することでより良い市にしていってほしいと思います。

第15回 けやきの杜 小学生作文コンクール 銅賞作品

町の中での様々な思いやりの形

国分寺市立第七小学校
重野 優

私の好きな国分寺は、バリアフリーがたくさんあります。それは、町が様々な特徴を持った人を考えた思いやりの形だと思います。

例えば、駅前のスロープや点字ブロックです。スロープはベビーカーを押しているお母さんたちが使っているのを見ました。階段だけだったら、とても大変だろうと思いました。また、通学路で私は時々、目が不自由な人を見かけます。通学路に、点字ブロックは少ないので、使う場面はあまり見ないのですが、バリアフリーがあれば生活がしやすくなります。このように、国分寺はバリアフリーがたくさんあって良いと思います。

しかし、バリアフリーがあるだけで、全ての問題が解決するのでしょうか。そこで、支え合うには思いやりも必要だと考えました。思い出すのは、お母さんと電車に乗った時のことです。電車の席に座っていると、杖を持った人が乗ってきました。するとお母さんが、「席をゆずろう。声をかけてみて。」と言うので、私は緊張しました。なぜなら、電車の中で知らない人に話しかけたことがなかったからです。でも、私は勇気をふりしぼって声をかけてみました。その時は次の駅で降りるから、と断られてしまったのですが、私が良い事をした気分がいっぱいになりました。

このように、バリアフリーがあるだけではどうにもならない問題がいくつもあります。

そんな問題が少しの勇気で解決につながるのならば、私は少しの勇気をもって生活したいと思います。さらに、周りの人々とも協力していけるような、そんな国分寺に、私はしたいです。

第15回けやきの杜こども作文コンクール 銅賞作品

国分寺駅にホームドアをつけてください

国分寺市立第七小学校
杉田 楓

私は国分寺駅にホームドアを設置してほしいです。現在、西武線の駅にはありますが、JRにはまだ設置されていません。ホームドアはプラットフォームからの転落や、電車との接触を防ぐためのものです。電車が到着したときだけ開くので、混雑しているときでも落ちる心配がありません。

昔、ある駅でホームを歩いていた人のかさが通過中の貨物列車にひっかかり、そのまま引きずりこまれてしまったという事故を、母から聞きました。想像するだけでも怖かったです。私も混雑している時間帯に、動き始めた電車にぶつかりそうで怖い思いをしたことがあります。

ホームドアを設置するのは大工事なので、お金も時間もかかるそうです。毎年、東京には十数個の駅にしか設置できないそうです。

国分寺には学校や会社がたくさんあり、駅がとてにぎわっています。再開発で駅前が整備されて、とてもきれいでいい街です。私はそんな国分寺駅で悲しい事故が起きて欲しくありません。ホームドアの設置にはまだ時間がかかるとは思いますが、それまでの間、周囲の人が思いやりをもって声をかけ合うことで悲しい事故をふせげるといいなと思っています。